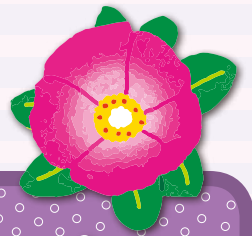


ねんちようしゃ せいしょうねん  
年長者・青少年



# 医療や福祉ではたらく人びと



いわてけんりつやまだひょういん しんちくらくせいしき  
岩手県立山田病院の新築落成式(2016(平成28)年8月19日)



えんじ ちようりつ ようちえん  
園児とともに(山田町立わかば幼稚園)

医療や福祉の  
お仕事って  
どんなものだろう。



まつりちゃん 夏織さん 海大くん



くろま こうれいしゃ  
車いすの高齢者と  
とくべつようこうろじん  
(特別養護老人ホーム平安荘)



まちきょういく いんかい  
山田町教育委員会



# 子育てを支援する

安心して子育てができる  
まちが  
いいね。



身長・体重などの測定(乳幼児健診)



ブックスタート。3か月児健診時にボランティアによる絵本の読み聞かせ、子育て支援情報のお知らせ、絵本のプレゼントを行っています。

## 子育て世代包括支援センター

妊娠期から子育て期にわたる母子の健康、育児に関する相談支援等を目的として、2017(平成29)年度に設置されました。主な事業は、母子健康手帳交付時の健康相談、助産師なんでも相談、不妊相談、子どもの病気や障がい・心身の成長等に関する相談、思春期講話などの開催、子育て支援サービスの紹介などです。安心して出産・育児ができるよう、細やかな対応を行っています。



## たんぽぽ学級

0~3歳の未就園児を持つ親・家族を対象にした学習会です。託児ボランティアが子どもを見てくれるので、安心して学習ができ、参加者どうしの情報交換や交流も行われています。



父母の学習会(たんぽぽ学級)

## 地域子育て支援センター

親と子の楽しい広場である「すくすくひろば」、さまざまな育児相談を行う「ワイワイキッズ」、子育てについて学びあう「育児講話・講座」、1歳未満の子どもとその保護者の交流と情報交換の場「赤ちゃんらんど」などの事業を行っています。

## 子育てサロン

オランダ島ハウスで開かれている子育てサロンは、就学前の児童とその保護者を対象とした、子どもや親どうしが自由に交流したり遊んだりする場です。



### 山田ならではの情報共有と見守り 助産師 宮澤ヒマ子さんのお話

病院の診察を受けて出産予定日がわかり、妊娠の届け出があったときから、妊婦さんと私たちのつきあいが始まります。子育て支援が注目されるようになったのは最近ですが、もともと山田では保育園、幼稚園、小中学校をはじめ、各種機関が連携して子どもや家庭の情報を共有して育児や教育を行っていました。

どんな問題点も見逃さず、いろいろなところで母子を見守っていきますので、山田では安心して子育てができると思いますよ。

# お父さん・お母さんを応援

## 保育所(園)・幼稚園のお仕事

山田町には保育所(園)が8園、幼稚園が2園あります。  
 保育所(園)は厚生労働省が管轄する、0歳から小学校入学前までの乳児や幼児を預かって保育する機関であり、幼稚園は文部科学省が管轄する、3歳から小学校入学前までの幼児が通園して学ぶ教育機関です。保護者はそれぞれの家庭の環境や事情に応じて、子どもに保育や教育を受けさせています。

やっぱり子どもは  
 宝物だね



豊さん



### 地域ぐるみで見守って育てる 山田町立船越保育園園長 山崎智子さんのお話

船越保育園は船越地区の高台にあり、適度な広さの園舎と運動場を有しています。周囲は草木が豊かでサクラ、ツツジ、コスモスなど四季の花々を楽しめます。

「安全」「安心」「安定」を信条に、よい環境で子どもたちが育つよう心がけています。昔からこの場所にあるのですっかり地域にとけ込み、本人・子ども・孫と3代で通っている家庭もあります。子どもたちのことを地域の人がよく知っていて、地域ぐるみで子育てをしてもらっているという安心感があります。



高台の園舎と運動場



運動会の練習



### 遊びを通して学ばせたい 山田町立わかば幼稚園園長 関菜利さんのお話

わかば幼稚園は豊間根・荒川地区の、海辺から離れた山間地域にあります。自然豊かなところで子どもたちはのびのび過ごしています。「じょうぶな子」「やさしい子」「よくかんがえる子」を教育目標に掲げ、生活や遊びの中でよく考え、いろいろなことに気づき、やさしさと思いやりのある子に育つよう直接体験を大切に教育を行っています。また、「大黒舞」の伝統継承では、年長組が行っていることを年中・年少組の子どもたちが見て覚え、自分から進んで遊びに取り入れています。子どもたちなりに教えあうなどのようすも見られ、頼もしく思っています。

「じょうぶな子」「やさしい子」「よくかんがえる子」を教育目標に掲げ、生活や遊びの中でよく考え、いろいろなことに気づき、やさしさと思いやりのある子に育つよう直接体験を大切に教育を行っています。また、「大黒舞」の伝統継承では、年長組が行っていることを年中・年少組の子どもたちが見て覚え、自分から進んで遊びに取り入れています。子どもたちなりに教えあうなどのようすも見られ、頼もしく思っています。



「大黒舞」を練習する子どもたち



# 福祉のお仕事

## さまざまな介護施設

いろんな施設があるんだなあ。

介護施設や高齢者住宅には、公的施設として特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、ケアハウス、養護老人ホームが、民間運営施設として有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホームがあります。

平安荘のような特別養護老人ホームは、病気や障がいなどによって自宅での生活が難しい人や、自宅で介護を受けることが難しい人が入居できる介護施設で、さくら山のような介護老人保健施設は、病院と自宅の中間に位置づけられ、リハビリテーションを通じて、また自宅で生活できるようになることを目的とする公共型施設です。



越次郎さん



### ありがとうや笑顔がうれしい 特別養護老人ホーム平安荘 鈴木直美さんのお話

母親が福祉の仕事をしていて、ずっと興味があり、小さいころから人の役に立ちたいと思っていましたので、迷わずこの道を選びました。寝たきりの方のお世話もあり、大変なこともあります。先輩たちが親切に指導やフォローをしてくれるので苦にはなりません。利用者さんにありがとうの言葉をいただいたり、にっこり微笑んでくれたりすると疲れも吹き飛び、すごくうれしいです。みなさんにも福祉の仕事に挑戦してほしいと思います。



### 利用者の方の若いころの話が楽しみ 特別養護老人ホーム平安荘 鈴木佳央理さんのお話

おじいちゃん、おばあちゃんと暮らしていて、おじいちゃん、おばあちゃんが大好きでした。高校のころ部活のマネージャーをやっていて「支える」ということに使命感を感じ、それなら、おじいちゃん、おばあちゃんたちのような高齢の方がたを支えたいと思うようになりました。それで高校在学中にヘルパー2級の資格を取り、地元山田の施設である平安荘に勤めることになりました。利用者さんの若いころの話や聞けるなど楽しいこともたくさんありますよ。



### 介護の仕事ができることに感謝 介護老人保健施設さくら山 五十嵐美静さんのお話

私たちの施設は、自宅生活できるように支援する役割をもっています。すべてに手をかけてあげるのではなく、できるだけご自分でできるように声かけやお手伝いをします。利用者がどういう方で何を必要とされているかに注目しつつ、まわりにも目を配る必要があるのが難しいところで、大切なのは介助を「やってあげている」ではなく「させていただいている」という意識です。社会に必要なことで、自分や自分の親にも無関係ではないと思ったのがこの道に入ったきっかけです。みなさんにも、福祉についてもっと知ってもらえたらと思います。

# 地域医療を担う

どんなお仕事  
なんだらう？



## 岩手県立山田病院

山田病院は、1943(昭和18)年に開院、1950(昭和25)年に県営となり、宮古市にある県立宮古病院と緊密に連携しながら地域に医療を提供しています。かつては柳沢地区にありましたが、東日本大震災で被災、総合運動公園内の仮設診療所を経て2016(平成28)年9月に現在の場所に再建されました。病床は50床で、内科を中心に常勤医師は3名。外科、小児科、整形外科、眼科は応援医師による週1回程度の診療となっており、医師の確保が大きな課題となっています。



飯岡地区に再建された山田病院は、高台という立地と充実した設備で、ふだんの地域医療だけでなく災害時の医療拠点としての活躍が期待されています。



### 「急がば回れ」が大事。いろいろなことを知ってほしい。 病院長 宮本伸也さんのお話

高校時代に、祖父や戦争で亡くなった叔父が医師であったことを知り、自分もなりたいたいと思い、その道に進みました。岩手医科大学卒業後、大学の研修医となり、その後宮古病院に勤務、そして山田病院の院長となり、現在に至っています。患者さんが治るとうれしいですが、治らない病気も多く、簡単ではありません。どんなときにも「冷静に判断する」ということを心がけています。

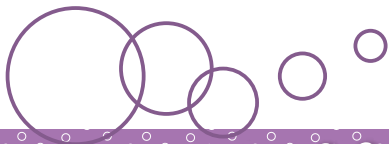
みなさんには「急がば回れ!」ということを知ってほしいと思います。患者さんは多種多様です。さまざまなことを知ること、医療以外の経験が医師にとっても大事です。



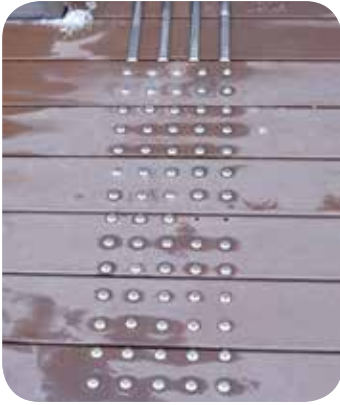
### 医療はチームワーク! 事務局 佐藤誠さんのお話

医療はチームワークで提供するものです。そして、チームには医師をはじめさまざまな資格を持った人たちがおり、患者さんもまたさまざまな性格・職業の方がたがいます。こういう人たちとうまくやっていくためにはたくさんの経験が必要で、そのためにはいろいろな話を聞くことができる、いろいろな人たちとつながることができることが大事です。

みなさんには、そういう基本的なことがしっかりできたうえで、自分の想いをちゃんとたくさんの人に伝えられる人になってほしいです。



# バリアとバリアフリー



点字ブロック



多目的トイレ

この設備やマークは何のためかな？



スロープ



駐車場のこのマークは？

## バリアフリー／ユニバーサルデザインって？

バリアフリーとは、お年寄りや障がいのある人たちが社会生活を送るうえで障壁(バリア)となるものを取り除くことです。現在では道路や建物の段差や仕切りをなくすことから、社会制度や人びとの考え方などに生じるさまざまなバリアをなくすことまで意識されています。

ユニバーサルデザインは、自らも障がい者だったロナルド・メイスという人が、バリアフリー対応設備の「障がい者だけの特別扱い」に嫌気がさし、最初から多くの方に使いやすいものを作る設計手法として提唱した考え方です。

## 要配慮者／避難行動要支援者とは？

災害が起きたときを考えてみましょう。ふだんの生活でもさまざまな場所に見られる「バリア」は、そのときもっと増えるに違いありません。

『災害対策基本法』では、お年寄りや障がいのある人、小さな子どもなど災害のとき特に配慮が必要な人を「要配慮者」、そのうち自分で避難するのが難しい人を「避難行動要支援者」としています。

要配慮者や避難行動要支援者への支援について、私たちはふだんから考えておく必要があります。要配慮者や避難行動要支援者が安心できる社会は、みんなが安心できる社会なのですから。



山田町社会福祉協議会では、要配慮者や避難行動要支援者も想定した防災訓練を行っています。

しらべてみよう

身のまわりにどんなバリアがあるかしらべてみよう。